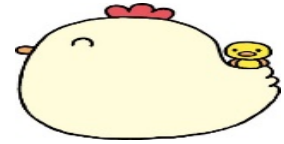




高田病後児保育所「ぬくみ」 掲示版

【5月のテーマ】 熱性けいれん



高田病後児保育所スタッフより

爽やかな風に暖かい日差しの中で、外朝火やお散歩が楽しい季節になりました。今月のテーマは「熱性けいれん」です。熱性けいれんは、生後6ヵ月～5・6歳までに起こる、通常は38℃以上の発熱に伴って起こる発作です。髄膜炎や代謝異常、脱水、その他明らかな発作の原因が認められないものと言います。

☆熱性けいれんの症状は？

突然、意識を失い、目が一点を見つめたり、白目をむいたり、歯を食いしばって息を止めて、一時的に唇が紫になり、顔面が真っ青になったりします。手足や身体を突っ張って、ぴくぴく、がくがくと震わせたりもします。これらの動作は5分未満でおさまって意識が戻るか、そのまま眠ってしまいます。それ以上に続くのは単純な熱性けいれんではないので特に注意が必要です。

☆熱性けいれんを起こした時の対応は？

1. 周りに危険なものがない平らな場所に寝かせ、呼吸が楽にできるように衣服を緩める。
※口の中に指や物を入れない。吐く原因や呼吸のしにくくなる可能性がある。
2. 吐きそうであれば、顔を体ごと横に向け、吐いた物が喉に詰まらないようにする。
3. その後、けいれんが始まった時刻を確認。
4. けいれんの様子を観察。(片手の手、足、眼だけがけいれんしていないか？など)
※動画を撮っておくとその後の診察で医師に様子を理解してもらいやすい。
5. けいれんが治まったら、何分続いたかを確認し、体温を測る。
6. 初めて熱性けいれんを起こした場合は、短時間であったとしてもすぐに受診する。
※2回目以降で、短時間で治まった場合は通常の診察時間の受診でもよい。

☆このような場合はすぐに受診を！

- ①けいれんが5分以上続く
- ②発作前から意識がおかしい、発作後も意識が戻らない
- ③1回の発熱で2回以上起こした
- ④けいれんが左右対称ではない(片方だけ起こる)
- ⑤眼が一方だけに偏っている
- ⑥発作後に麻痺(手足、顔の一部が動かさない)が出現
- ⑦初めてのけいれんが6ヵ月未満、または6歳以上で起こった
- ⑧家族にてんかんの方がいる
- ⑨発達障害・神経障害がすでにある
- ⑩発作が起こる24時間以上前から高熱が続いていた

☆けいれんの予防

ジアゼパム(ダイアアップ)座薬を使用します。発熱の早期(37.5～38℃以上)で使用するとけいれんが予防できることが多いです。今までに2回以上発作を経験していると予防投与を考慮します。なお、発熱時に解熱剤を使用することはけいれんの予防には繋がりません。

熱性けいれんは一般的な病気です。初めての場合は、慌てて当然です。そういう時は救急車を呼んで受診しましょう。分からないことがある時はかかりつけへ相談してください。

